

第一一二回 楽々俳句会(ちば)

令和六年十月十日(木) 晴 千葉公園競輪場前広場

会場 支援センター九階 十時集合

投句三句

久武 3 公園の色変えぬ松水に映え

1 2 音立てて機関車広場木の実落つ

2 ベーカリー匂い調ふ秋日かな

武久 2 秋高しドーム天辺に人の立つ

久 1 2 木道の湿り気踏むやうそ寒し

久 1 1 秋澄むや背鰭に波紋尾に波紋

久 1 1 野分跡すすきが原は銀の波

久 1 風に揺れたおやかなりし棟の実

1 異次元の「50」「50」や九月のロス

荒寥と人寄せつけぬ破蓮

藪の中見えて隠れる烏瓜 隠るる

天高しヒマヤラスギの太き幹

天気図でバック膨らむ秋の夜 天気図や

2 剥き出しの銀杏揺るる芝生かな

1 2 秋時雨子規句辿る俳句道

1 1 芝パーク秋冷ひと足の裏

1 朝寒の潮を彩る舳い船

3 秋の空車輪が宙へスケボーよ

スケボーの車輪が宙へ秋の空

3 万咲きて万の風よぶ曼殊沙華

3 津軽行く童片手に赤りんご

2 草の花教えてくれし白き指

2 秋染むる芝庭にひとり思案中

2 秋うららグラウンド跡をひた歩く

1 うすもみじ砂紋に流す竜安寺

竜安寺波紋に流るうすもみじ

粹歩

粹歩

今日子

今日子

武彦

恵美子

弘子

豊隆

信雄

武彦

豊隆

久登

静代

久登

静代

恵美子

宣子

成子

宣子

利太郎

粹歩

今日子

育子

恵美子

1 赤松の幹を仰ぎつ秋惜しむ

1 満月や雲も遠慮し闇照らす

1 歩ききてふと秋の風頬かすめ

歩ききて頬かすめたる秋の風

1 秋高し芝生の広場駆けめぐる

1 切手貼る指先濡らす夜の秋

秋の夜や指先濡らし切手貼る

1 松手入れ鉢の音リズムミカル

リズムミカル鉢の音や松手入れ

1 秋の田に雀飛び散る利根下る

利根下る雀飛び散る秋の田に

秋の庭四方八方人動く

秋の朝ママ友笑うスタバかな

咲きみちて明けゆく紅の曼殊沙華

総裁選愛執訴え色なき空

風吹けば草木のなびく秋の暮

街灯や草木のなびく秋の暮れ

高崎花火ラインで見るや孫二人

孫二人ラインで見るや高崎花火

公園に胡桃ころころ雛こける

彼岸花姿艶やか見へぬ陰

凹凸へスケボー廻る秋の芝 凸凹

花も枝も百日紅のくたぶるる

腰痛の湿布二枚寒露かな

参加者 成子・園子・育子・静代・恵美子・宣子

信雄・豊隆・利太郎・粹歩・武彦・久登

投句 今日子・弘子 欠席 洋子 ミチ子

次回予定

十二月十二日(木) 登渡神社 九時集合

十時参集殿 茶話会

一月九日(木)

兼題「七種」

十時活動センター